

## 平均車齢、平均使用年数は5年連続の最高齢

財団法人自動車検査登録協力会(理事長 中田敏郎)は12月15日、「平成15年版 わが国の自動車保有動向」(平成15年3月末現在における自動車の平均車齢、平均使用年数、世帯当たり普及等)を発行した。それによると、自動車の平均車齢は乗用車6.39年、貨物車8.10年で、いずれも前年より延び、当会が統計を取り始めた昭和49年以降で最高齢となった。自動車の平均使用年数は、乗用車10.77年、貨物車11.23年となり、平均車齢同様、いずれも過去最高となった。また、自家用乗用車(軽自動車を含む)の世帯普及状況をみると、前年同様42道県で1世帯1台を超えている。

平均車齢(人間の平均年齢に相当、軽自動車を除く)

乗用車の平均車齢は6.39年となり、平成8年11月に初度登録された車が平均となる。平均車齢を前年と比較すると0.16年延び、10年前の平成5年と比べると1.81年延びている。

車種別にみると、普通乗用車は6.03年で、前年に比べ0.40年延びて6年台に入った。普通乗用車は平成元年の自動車税制の改正以降大幅に若返りが進んだが、平成7年以降再び新車需要の延び鈍化などから高齢化が進んでいる。小型乗用車は6.59年で、0.03年の延びに止まった。

貨物車の平均車齢は8.10年で8年台に入った。平成7年2月に初度登録された車が平均となる。平均車齢を前年と比較すると0.33年延び、11年連続して高齢化し、昭和49年以降で最高齢となった。

車種別にみると、普通貨物車は8.70年で、前年に比べ0.29年延び、小型貨物車も7.77年で、0.31年延びている。

平均使用年数(人間の平均寿命に相当、軽自動車を除く)

乗用車の平均使用年数は10.77年で、前年に比べ0.22年、10年前の平成5年に比べ1.44年、それぞれ延びている。

車種別にみると、普通乗用車は9.70年で、前年に比べ0.58年延びた。小型乗用

車は11.03年で11年台に入り、0.21年延びている。

貨物車の平均使用年数は11.23年で、前年と比較すると0.31年延び、乗用車との差は0.46年に広がった。

車種別にみると、普通貨物車は12.75年で、前年に比べ0.44年延び、小型貨物車も10.73年で、0.23年延びている。

## 自家用乗用車の世帯当たり普及、42道県が1台超える

自家用乗用車(軽自動車を含む)の世帯当たり普及台数は1.100台で、前年比べて0.006台増加している。

都道府県別にみると、世帯当たり普及台数が1台を超えているのは、前年同様42道県であった。普及台数が最も多いのは福井県で1.715台。以下、富山、群馬、岐阜、栃木、山形、茨城、長野、山梨、石川の順で、これら上位10県では1.5台以上の普及となっている。

都市別(自家用乗用車保有台数上位200都市)にみると、世帯当たり普及台数の最も多いのは前年同様、西尾市(愛知県)の1.902台で、前年比べて0.028台増加している。2位は小松市(石川県)で、以下、豊田市(愛知県)、太田市(群馬県)、可児市(岐阜県)、伊勢崎市(群馬県)、福井市(福井県)、鹿沼市(栃木県)、高岡市(富山県)、各務原市(岐阜県)の順となっており、1世帯に1台以上保有している都市は、前年よりも4都市増えて129都市となった。

全自動車(登録車、軽自動車、小型二輪車の合計)の世帯当たり普及台数は1.561台で、前年と比較すると、0.007台減少している。

わが国の自動車保有動向は、国土交通省の資料に基づいて当会が発行した「平成15年版 自動車保有車両数統計書」(平成15年3月末現在、全6冊)、「平成15年版 自動車流通統計書」と当会が構築した「汎用統計システム」を基に、関連する一部の外部資料を加え、わが国の自動車保有・使用実態を様々な角度から分析したものである。